



計画策定の背景

近年、特定健診の実施、診療報酬明細書等の電子化の進展、国保データベース（KDB）システムやAICube（アイキューブ）などの整備により、保険者は、健康や医療に関する情報を活用して被保険者の健康課題の分析、保健事業の評価などが行えるようになりました。

厚生労働省は、こうした背景を踏まえて、保険者の保健事業をさらに推進するために、厚生労働大臣が定める『国民健康保険法に基づく保健事業の実施等に関する指針（平成16年厚生労働省告示第307号。以下「保健事業実施指針」という。）』の一部を改正し、保険者は健康・医療情報を活用してPDCAサイクル（PLAN - DO - CHECK - ACTIONサイクル）に沿った、効果的かつ効率的な保健事業の実施を図るための保健事業の実施計画を策定することと決めました。

東浦町では、平成28年3月に第1期の「東浦町国民健康保険データヘルス計画」を策定し、第2期となる本計画においても、被保険者の健康増進、生活習慣病の発症や重症化の予防などの保健事業を実施していきます。

計画の期間と評価

平成30年度～平成35年度を計画期間とします。平成32年度に中間評価を行い、必要に応じて事業内容の見直しを行います。最終年度（平成35年度）に、計画全体の評価を行い、次期計画の策定に結果を反映します。

現状と分析

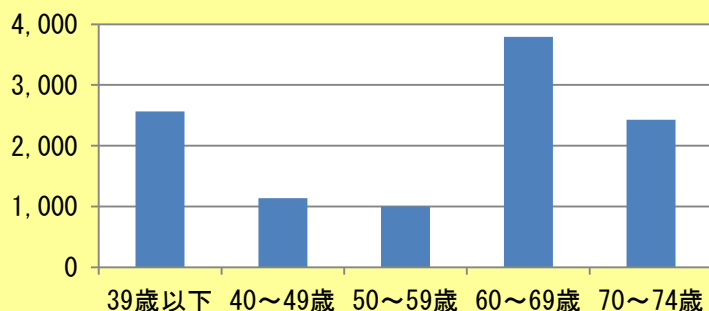
被保険者数の状況（平成28年度）

東浦町の平成28年度末日時点における人口は50,419名で、うち被保険者は10,927名、国保加入率は21.7%です。

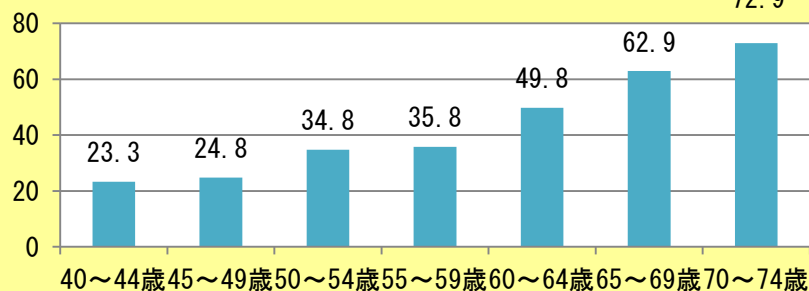
平成28年度の年齢区分別被保険者数は、60代以降の加入者が約60%を占めています。

（出典：国保データベースシステム）

（人） 東浦町 年齢区分別被保険者数



（%） 東浦町 特定健康診査年齢区分別受診率



特定健診受診の状況（平成28年度）

東浦町の特定健診受診率は、平成28年度58.9%、県内で2位と高い水準になっています。

しかし、年代別にみると40歳から50歳代までの受診率は低く、若い世代への受診勧奨が必要です。

また、国や愛知県と比較し、「メタボ該当者」の割合がやや高い結果となりました。

（出典：国保データベースシステム）

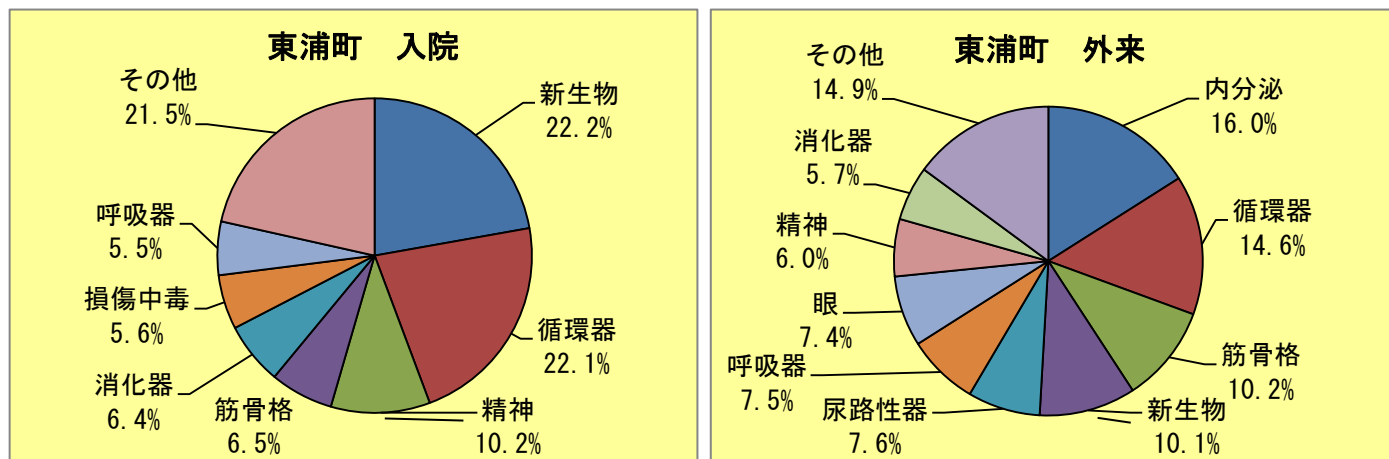
	東浦町 (%)	愛知県 (%)	国 (%)	県内の順位
メタボ予備群	10.7	10.4	10.7	24
メタボ該当者	19.2	18.4	17.3	22

疾病分類別の医療費の割合（平成 28 年度）

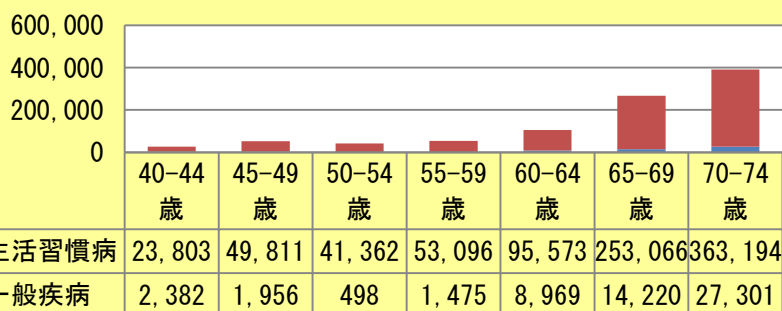
疾病分類別の医療費の割合を見ると、入院では、胃がんや大腸がんなどの「新生物」、虚血性心疾患や脳梗塞などの「循環器」、統合失調症やうつ病などの「精神」が上位を占めていることがわかります。

外来では、糖尿病や脂質異常症などの「内分泌」、高血圧症や不整脈などの「循環器」、関節疾患や骨粗しょう症などの「筋骨格」が上位を占めています。

（出典：国保データベースシステム）



（千円） 東浦町 年齢区分別医療費（入院）



年齢区分別医療費

（平成 28 年度）

年齢区分別での医療費状況を見ると、60歳以降から、入院・外来ともに、生活習慣病にかかる医療費が大幅に増大していることがわかります。

※生活習慣病の区分

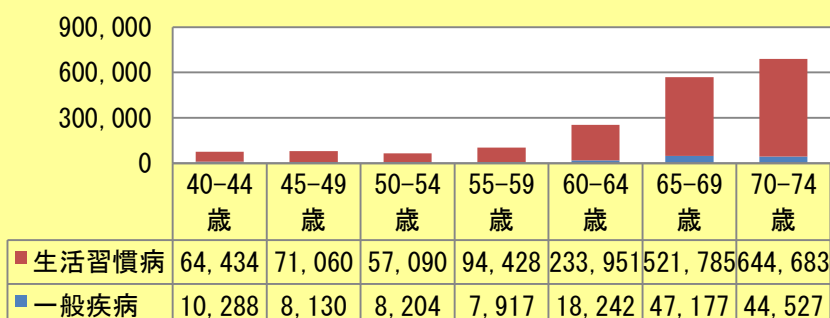
糖尿病、高血圧症、脂質異常症、高尿酸血症、脂肪肝、動脈硬化症、脳出血、脳梗塞、狭心症、心筋梗塞、がん、筋・骨格、精神

※一般疾病の区分

生活習慣病以外の疾病

（出典：AICube）

（千円） 東浦町 年齢区分別医療費（外来）



細小分類別医療費割合（平成 28 年度）

細小分類ごとの医療費を比較すると、糖尿病、高血圧症、慢性腎不全（透析あり）と、生活習慣病にかかる医療費が上位を占めていることがわかります。

（出典：国保データベースシステム）

順位	疾病名	割合 (%)※
1 位	糖尿病	6.9
2 位	高血圧症	5.6
3 位	慢性腎不全（透析あり）	4.0

※全体の医療費（入院+外来）を 100%とした場合

課題

保健事業・目標

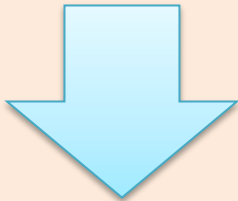
○若い世代が少なく、高齢の世代が多いという構造上、医療費が増大しやすい。

○高額な医療費が必要な腎症につながる、糖尿病関連疾患の方が多い。

- ・ 60歳以降の生活習慣病が多い。
- ・ 特定健診でメタボ該当者が多い。

○高額な医療費が必要ながんが原因で入院する方が多い。

- ・ がん検診の受診率が低い。



— 解決のために —

被保険者に健康でいてもらう

高額医療になりやすい腎症やがんにならないように、予防・早期治療をしてもらう

1 特定健診受診勧奨事業

特定健診を受診してもらい、疾病の早期発見、早期治療につなげる。

目標項目	現状 (H28年度)	中間目標 (H32年度)	最終目標 (H35年度)
特定健診受診率	58.9%	61.0%	62.0%

2 がん検診受診勧奨事業

がん検診を受診してもらい、がん（新生物）の早期発見、早期治療につなげる。※国民健康保険の被保険者の受診は無料。

目標項目	現状 (H28年度)	中間目標 (H32年度)	最終目標 (H35年度)
胃がん	10.2%	25.0%	50.0%
肺がん	31.4%	47.0%	50.0%
大腸がん	14.6%	30.0%	50.0%

3 特定保健指導実施勧奨事業

特定保健指導を受けてもらい、腎症などの重大疾病を予防。

目標項目	現状 (H28年度)	中間目標 (H32年度)	最終目標 (H35年度)
保健指導終了率	60.9%	61.0%	61.0%
メタボ該当者率	19.2%	平成28年度より減少	平成32年度より減少

4 意識啓発事業

被保険者の健康に対する意識を高め、予防行動につなげる。

目標項目	現状 (H28年度)	中間目標 (H32年度)	最終目標 (H35年度)
1人当たり医療費（1か月平均）	23,031円	平成28年度より減少	平成32年度より減少

5 糖尿病性腎症重症化予防プログラム

糖尿病の未治療者に受診勧奨を実施し、重症化を予防。

**重点
事業**

糖尿病の未治療者に対して、電話やレセプトによる保健指導、あいち健康プラザの教室などの事業を継続することで、事業の対象者となる、基準値 HbA1c6.5%※以上に該当する方を1人でも減らしていく。 ※HbA1cとは、糖化ヘモグロビンの割合を表したもので、糖尿病の判定に用いる値。

保健事業内容



1 特定健診受診勧奨事業

項目	概要	対象者	実施回数
未受診者への勧奨	受診歴や問診票から対象者を絞り込み、電話やはがきなどによる受診勧奨	40～74歳	年2回以上
健診前の若年者への勧奨	翌年度に特定健診受診の対象となる39歳の被保険者へ、インターネット上で結果が確認できる、簡易な血液検査キットを送付 検査数値を確認することで自身の健康への意識を高めてもらい、次年度以降の特定健診受診へのきっかけとする	39歳	年1回

2 がん検診受診勧奨事業

項目	概要	対象者	実施回数
町広報紙を利用した申込票の配布	町広報紙に、がん検診申込票を同封し、申込の機会を提供	町民	年2回
無料クーポン送付による受診勧奨	特定年齢の対象者に対し、無料で検診を受けることが出来るクーポンを送付	大腸、乳がん 40歳 子宮頸がん 20歳	年1回

3 特定保健指導実施勧奨事業

項目	概要	対象者	実施回数
特定健診の結果返却と初回面接の一括実施	健診結果の返却と、初回面接を一括実施することで、健診結果に基づいた効果的な指導を実施 また、来庁回数を減らすことで対象者の負担軽減を図る	40～74歳	通年

4 意識啓発事業

項目	概要	対象者	実施回数
健康づくり教室・健診事後教室の開催	運動を中心に生活習慣を見直し、生活習慣病を予防する各種健康づくり教室を開催	40～74歳	年度内1コース
あいち健康プラザが開催する講座受講料を助成	あいち健康プラザ健康づくり講座受講料の半額を町が助成し、国保の被保険者は、さらに1/4を助成	20歳以上	5年度毎に1回

5 糖尿病性腎症重症化予防プログラム

項目	概要	対象者	実施回数
医療機関への受診勧奨	手紙や文書による受診勧奨	HbA1c 6.5%以上 かつ 尿蛋白+以上の方	年3回程度
あいち健康プラザ教室の受講勧奨	教室（早期腎症の診断、保健指導）の案内を送付	HbA1c 6.5%以上 かつ 尿蛋白±の方	年1回

発行 東浦町 平成30年3月
編集 東浦町 健康福祉部 保険医療課 健康課